

# 自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

- 平成24年度企画展「近代のあけぼのー錦絵にみる文明開化ー」
- 夏休み子ども歴史教室の報告・社会科自由研究作品展募集
- 資料紹介：森下高茂関係資料「板垣退助 遊説費用贈与への感謝状」

VOL.  
**73**  
2012  
September



錦絵「鉄道馬車往復京橋煉瓦ヨリ竹川岸図」部分  
歌川広重(三代)画 1882年

● リレーエッセイ

## 館収蔵品の市民公開について

開館以来22年が過ぎ、本館が買い求めた史料やご寄贈、ご寄託していただいた史料約7万点を整理し、保管しています。こうした市民の財産とも言えるべき史料を市民に公開するため、本年度は収蔵品展を企画いたしました。

第1弾として連休を挟んだ4月28日～6月10日、「憲法発布と錦絵」と題する錦絵展を開催いたしました。これは明治憲法制定と国会開設に特化した企画展で、テーマは難解なところもありましたが、とても好評でした。錦絵という美しい媒体をとおして憲法制定・国会開設の意義を感じていただけたのではないかと自負しています。今回、錦絵展をさらに延長し、8月4日～9月17日の会期で、「近代のあけぼのー錦絵にみる文明開化ー」と題する展覧会を開催しています。夏休み期間であり、子どもたちに解り易い展示を心がけました。

一つひとつの錦絵に、江戸時代から明治時代への急速な変貌が示されています。歩いている人の横を人力車、馬車、鉄道馬車が、さらには汽車まで走っています。人々の服装も和装から洋装まで様々です。建築物もバルコニー付きの洋館が現れ、銀座は歩道と車道に分かれ、その間に並木が植えられています。墨田川の堤の桜見物をしている和装の女性がバラソルを持っていたりします。丁寧に見ると興味が尽きません。

この機会に錦絵などを一人でも多くの人にぜひ見ていただきたいと思えます。

今後とも収蔵品の市民への公開に勉めますので、宜しくお願いいたします。

(当館館長 松岡 惇一)

平成24年度企画展 錦絵資料第2弾  
**近代のあけぼの**  
 — 錦絵にみる文明開化 — ご案内

平成24年度企画展「近代のあけぼの」錦絵にみる文明開化」を8月4日(土)から9月17日(日)まで特別展示室で開催しています。ぜひご鑑賞いただきますようご案内いたします。

明治維新後の新政府は、文明がすすんだ外国に追いつこうとして、諸外国の文化・産業を積極的に取り入れ、日本の西洋化・近代化をめざしました。これが文明開化です。

錦絵展第2弾「近代のあけぼの」では、文明開化によって大きく変化した

日本のおよそを、交通・産業・社会風俗など分野ごとに錦絵資料などでわかりやすく紹介しています。(展示資料79点) 私たちが生きている現代もまた、変化の激しい時代です。そうした時代において、激動の明治時代について学ぶことは、意義あるものと考えます。

【展示構成】

- ・ 文明開化と錦絵
- ・ 文明開化への道
- ・ 文明開化の様相
- ・ 交通 建築 社会・風俗 博覧会など



東京府通町ヨリ呉服橋之遠景  
 1868(明治元)年 よし藤画

〔明治天皇の東京遷都行幸は新旧時代を分ける盛儀とし多くの錦絵に描かれた〕



東京第一名所永代橋之真景  
 1875(明治8)年 歌川広重(三代)画

〔明治30年に鉄橋となり、路面電車も通る〕



東京府下第一大区  
 尾張街通煉瓦化石造商法繁盛之図  
 1873(明治6)年 歌川国輝(二代)画

〔東京銀座 明治5年の大火事をきっかけに、燃えない煉瓦石の建物がつくられた〕

錦絵とは・・・

錦絵は多色刷り木版画で、浮世絵の範疇に含まれます。墨一色で摺られた墨摺絵から始まる浮世絵版画は、1765(明和2)年に多色刷り版画を完成させる。これが錦のように美しいことから「錦絵」とよばれました。

錦絵の描く題材は、当初は役者絵や名所絵、美人画などが中心でした。それが幕末期ごろから報道的性格を強めるようになります。

例えば、開港後の横浜を描いた「横浜絵」などがあります。本展で紹介する文明開化期の錦絵も、そうした性格の延長上にあります。



東京築地ホテル館  
 1870(明治3)年 歌川広重(三代)画

〔明治元に建築 日本人経営の初めてのホテル 和洋風を生かしたみごとさに人びとは驚いた〕

文明開化の時代には、鉄道に代表される日本交通史における一大画期でした。またホテルや工場など施設が次々と設けられました。それらの建物は洋風建築で、新しい時代を人びとに感じさせる記念碑的な性格をも有していました。

まずあげられるのが築地ホテル館です。1867(慶応3)年、外国人に向けて開市されることになっていった江戸の外国人用ホテルとして、居留地の築地に建てられました。建設の着手は1867(慶応3)年、江戸幕府でしたが、完成は1868年、幕府が瓦解し、居留地とともに明治政府に引き継がれました。

外観は「東京築地ホテル館」(写真右)のように和洋折衷の本格的なものでした。設計はアメリカ人ブリッジエンス、建設は当時の名大工清水喜助の手によります。

## 文明開化の様相 博覧会

博覧会は、産業革命や通信・交通の発達などによる一大イベントです。

日本初の本格的な博覧会は、1877（明治10）年に上野で開かれた第一回内国勸業博覧会でした。産業奨励のために開催された内国博は、文明開化の時代に様々な影響を与えました。

西洋技術の紹介は、日本の近代化の目標を示すものでもありません。

また、数十万人を集める内国博が発信地となり、文明開化の情報を各地に伝播する効果ももたらしました。

日本の技術力向上、さらには近代化の推進力となったのです。



東京名所之内上野山内一覽之図  
1887(明治20)年 梅寿国利画  
日本初の大噴水や風車など人気を博した本館ほか、美術館、農業館、機械館など



上野公園地第三回内国勸業博覧会之図  
1889(明治22)年 東州勝月画

「上野公園地第三回内国勸業博覧会之図」

（写真左）は、内国博会場にでかけた天皇や皇后などの姿を描いています。この内国博は1890年4月から7月まで開催されましたが、天皇は開会式と褒章授与式と最終日に会場へと足を運んでいます。天皇の右側にえがかれているのは皇太子嘉仁親王で、当時12歳でした。こうした国家的行事への出席は、当時から皇室の重要な役目のひとつでした。

本展では、関連資料として「東京上野公園真景並ニ第三回内国勸業博覧会之図」（写真下）も展示しています。これは会場の入口付近をえがいた錦絵です。多くの人びとが描かれており、盛況の様子がうかがえます。

この第三回内国博では入館者がはじめて100万人を突破しています。



東京上野公園真景並ニ第三回内国勸業博覧会之図(部分)  
制作年・作者 不明

## 文明開化の様相 社会・風俗

明治政府は、欧米文化を積極的に取り入れ近代化を進めます。それらは生活様式にまで変化をもたらします。

政府は散髪・脱刀をはじめ、外見を西洋化しようとする洋装を奨励。1873（明治5）年には大礼服などが制定され、天皇も洋装を着はじめました。

「開化好男子」（写真下）は、当時の男性の代表的な服装を描いています。上等官吏・法学博士・代議士・学校生徒・医師・豪商紳士・壮士・若旦那の8人が登場しますが、このうち洋装であるのは半数の4人です。この資料は、明治23年の作ですが、この時期にでも男性の洋装は多くなかったようです。



開化好男子  
1890(明治23)年  
水野年方画

大日本婦人束髪図解  
1885(明治18)年  
松齋吟光画



1883（明治16）年、欧化政策の象徴「鹿鳴館」が建てられ、外交官などを招いて舞踏会が開かれました。参加した華族や政府高官の夫人・令嬢たちは、洋装をまともしても日本髪をすぐに洋髪にすることは難しかったのでした。

1885（明治18）年に医師の渡辺鼎らがそれまでの日本髪を廃して束髪にする運動を提唱し、「日本婦人束髪云」を設立した。展示資料の「大日本婦人束髪図解」（写真左）には、会の設立趣旨が書かれているが、それは日本髪が不衛生で不経済、そして不便であるということでした。また資料には「上げ巻」「下げ巻」「英吉利（イギリス）結び」などが列挙（マーガレット）の4種類の束髪が図示説明されています。

# 夏休み子ども歴史教室の報告

7月24日(火)、自由民権記念館では高知市教育研究会社会科部会との共催により、恒例の「夏休み子ども歴史教室」を開催しました。

この催しは、自由民権運動の歴史を常設展示室の観覧やクイズ、歌、劇などを楽しく学び、郷土の歴史について知識を深めてもらうと始めたものです。昨年は、植木枝盛旧邸書斎の移築復原



参加者全員で記念撮影

■ 第一チェックポイント  
高知県民謡協会のみなさんの三味線と太鼓の伴奏に合わせて、植木枝盛が作詞した「民権かぞへ歌」を歌います。最初は戸惑い気味だった子どもたちですが、民謡協会さんのご指導のおかげで元氣よく歌いきりました。

朝早くから子どもたちの笑顔と元気な声飛び交い、日ごろは静かな記念館もこの日ばかりは活気に溢れていました。受け付けを済ませると初めて出会ったお友だちと班づくり、開会式では当館製作ビデオ「自由民権って、何？」を観賞し、先生からの説明もしつかり聴いていよいよ10班に分かれてクイズラリーに出発です。  
クイズラリーは、次の5つのチェックポイントからなり、これらのチェックポイントを通るとラリーマップに民権家スタンプを押してもらえます。スタンプを5つ集めたらラリー完了です。各チェックポイントの内容は次のとおりです。

工事のため休止し、今年で15回目となります。当日は、高知市内の小学3年生から6年生101名が参加し賑わいました。運営にご協力いただきました高知市教育研究会社会科部会の先生方、「高知県民謡協会」、劇団「笛の会」の皆さんありがとうございました。



元気に受け付けする子どもたち

## ■ 第二チェックポイント

自由民権運動の時代に実際に作られ、遊ばれていた「民権すごろく」遊びを体験しました。

## ■ 第三・第四チェックポイント

常設展示の説明を受け、展示資料の中からヒントを探しクイズに答えます。ちょっと難しい問題もありましたが、みんな一生懸命に挑戦してくれました。

## ■ 第五チェックポイント

劇団「笛の会」のみなさんによる政談演説会を再現した芝居を観て、クイズに答えます。当時ながらの迫力ある劇に子どもたちは驚き圧倒されながらも、そのうちに自身が聴衆の一人となって、かけ声をかけたり、拍手をしたりして大いに盛り上げてくれました。

閉会式後は、大階段で記念撮影をし、無事解散となりました。  
参加された皆さんお疲れさまでした。



テレビの取材にはきはきと答えています

## 出題されたクイズの一例

問1 女性選挙権を日本で初めて要求した高知市出身の女性で、「民権ばあさん」と呼ばれた人は誰でしょう？

① 吉松 ます

② 楠瀬 喜多

③ 山崎 竹

問2 当時の流行語だった「自由」ということは、いろいろな商品の名前にもなりました。では「自由水」とはどんな商品だったでしょう？

① ミネラルウォーター

② 化粧水

③ 栄養ドリンク

問3 植木枝盛の書斎が、高知市桜馬場の旧邸から移築・展示されています。この書斎で書かれた憲法案は次のうちどれでしょう？

① 東洋大日本国憲案

② 大日本帝国憲法案

③ 日本国憲法案

— 高知市立自由民権記念館 学校教育連携事業 —

## 第13回社会科自由研究作品展募集

当館では、学校教育連携事業「社会科自由研究作品展」を実施しています。この作品展は、子どもたちが身近な郷土の歴史や様々な事柄について関心を持って学び、その成果を発表する目的で開催するものです。募集の概要は次のとおりです。皆様のご出品をお待ちしています。

- 主催：高知市立自由民権記念館
- 共催：高知市教育研究会社会科部会
- 応募要領
- 募集期間 平成24年11月1日(木)～11月30日(金)午後5時
- 応募作品及び規格
  - (1)高知市内の小・中学生の社会科に関する研究作品
  - (2)規格については、特に制限はありません。  
(ただし、展示面積は1作品につき模造紙全紙の1枚程度までとします。)
  - (3)グループでの作成作品も可とします。
- 募集点数 **1校20点以内、1人(1グループ)につき1点とします。**
- 応募方法及び応募先  
各学校に配布の応募用紙及び出品票に必要事項を記入し、(出品票は作品に貼付) **学校を通して** 高知市立自由民権記念館に提出してください。
- 作品展の日程 平成25年1月下旬～2月下旬(予定)  
※原則、全応募作品を展示します。また、特別賞表彰を行います。
- その他  
応募作品は、作品展終了後に各学校を通して返却いたします。

**※必着のこと**

【お問い合わせ先】

高知市立自由民権記念館  
〒780-8010 高知市棧橋通四丁目14-3  
TEL 088-831-3336 FAX 088-831-3306



自由民権通碑を調査する  
実習生たち

当館では、中高生の職場体験学習を受け入れています。今年も、7月に市立横浜中学校から2年生3名が来館し、11月には市立高知商業高校の生徒2名が予定されています。

今回の実習では、総合受付での来館者サービスや施設利用統計事務、資料整理

### 中学生 職場体験学習で来館する

などの通常業務から博物館施設の概要説明、展示資料の学習と館周辺の民権史跡調査、民権史跡マップづくりなどを行いました。職場体験学習を通じて、土佐人の誇りである自由民権運動の歴史や地域文化を学び郷土への関心を深める機会として欲しいと希望しています。



潮江地区の「民権史跡マップ」が完成



「民権かぞへ歌」を皆で歌う



「民権すごろく」遊びを体験



各チェックポイントで「民権家スタンプ」を押して巡る



館長の説明を聞く子どもたち



政談演説会の再現劇をみる

高知市立自由民権記念館  
マスコットキャラクター出現

高知市立自由民権記念館の指定管理者イヨテツケーターサービス(株)では、多くの人々に施設に親しみ利用していただくため、みんなに愛されるマスコットキャラクターと愛称を募集しました。



(最優秀賞作品「じゅっぴー」)

自由大懇親会に旗を掲げて向う人びとを愛らしいキャラクターで表現しました

受賞者名一覧

○最優秀賞 (1名)

作品名「じゅっぴー」  
濱口 健吾  
(城西中学校 3年)

○優秀賞 (5名)

- ・作品名「自由太」  
佐々 優太  
(朝倉第二小学校 2年)
- ・作品名「自由ミンミンゼミ」  
池上 響  
(江陽小学校 3年)
- ・作品名「イタ爺イタガッキー」  
李 未羽  
(神田小学校 4年)
- ・作品名「ミンケンクン」  
川口 美雲  
(横浜新町小学校 4年)
- ・作品名「フリダムくん」  
岡村 美月  
(旭中学校 2年)

ほか特別賞7名が受賞されました。



子どもたちの感性豊かな作品あつまる

このたび、478点のご応募の中から選考の結果、最優秀賞1点、優秀賞5点、特別賞7点が決まりました。たくさんのご応募ありがとうございました。応募された作品は、館内で8月19日から9月9日まで展示しています。また、表彰式を8月25日に民権ホールで行いました。これからも自由民権記念館と新しい仲間「じゅっぴー」くんをよろしくお願いたします。

自由民権記念館友の会 ご案内

高知市立自由民権記念館友の会は、4月30日に2012年度総会・講演会を行い、事業・決算報告の承認や新年度事業計画などを決定しました。また、役員の改選があり、窪田充治会長が退任され、新会長に岡林登志郎氏が選任されました。

友の会は、①民権史跡探訪②民権風まつり③読書会④炎俳句会⑤民権史跡の保存と顕彰などの活動をされています。

活動内容は、機関紙「民権の炎」を発行し報告されています。平成23年度の植木枝盛旧邸書斎移築復原工事では、植木枝盛座像などをご寄贈いただきました。日頃から当館事業に多大なご協力をいただいておりますこと感謝申し上げます。

(新役員)

- 会長 岡林 登志郎(新)
- 事務局長 尾崎 香 (再)

■民権史跡探訪 参加者募集

『バスによる中芸地区の  
維新・民権史跡めぐり』

- ・日時 11月17日(土)9時～18時
- ・参加費 4,000円程度
- ※バス・昼食代、参加人数で変更あり
- 歴史案内人は、当会幹事(高知近代史研究会会長)公文豪さんです。この日は、中岡慎太郎の命日にあたります。
- ・申込先 高知市立自由民権記念館内
- 友の会事務局(1階)

TEL 088-183-1133

自由民権記念館

事務局体制の変更 お知らせ

平成24年4月1日付け高知市機構改革で事務局の体制が変更されました。

主な変更内容は、生涯学習課所管の文化財担当(①文化財・埋蔵文化財の保護②文化財施設の管理運営など)業務を含め民権・文化財課と名称変更しました。

自由民権記念館の業務は、施設管理部門を指定管理者(イヨテツケーターサービス株式会社)が行い、学芸部門を「民権・文化財課」学芸企画担当が行います。なお、事務局は館内2階にあります。

(連絡先)

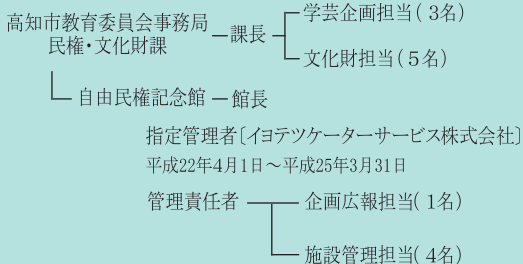
自由民権記念館

TEL 088-183-1133

民権・文化財課

TEL 088-183-2172

事務局体制組織図(変更後)



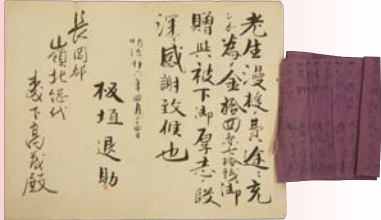
森下高茂関係資料より

### 板垣退助

#### 「遊説費用贈与への感謝状」

明治二十六年三月二十二日、自由党総理板垣退助は、近畿、山陽、山陰遊説の途次、五年ぶりに帰県した。随行は江口三省、牧野照、中野寅次郎、浦戸湾に浮かんだ二千余艘の迎待船には大旗・旌旗が林立。東西七郡から群集した人々が湾の内外を埋め尽くし、前代未聞の偉観を呈した。翌二十三日鏡川磯で総理一行の歓迎懇親会が開かれ、競馬や香宗の棒使い、諸木の花取踊りなどの余興が数万の観衆を喜ばせた。滞在一ヶ月。四月二十二日、中島町高知座で政談大演説会を催し、板垣は三千人の聴衆を前に「主義及施政の方針」と題して長広舌をふるった。同月二十八日、一行は次の遊説先に向かう。

この資料は、嶺北地域の党員・有志が総理遊説費用として金十四円七十銭を贈ったことへの感謝状である。当然、各郡から同様の寄金があったであろう。今日と異なり、党幹部の地方遊説が在地党員や有志の費用負担で行われていたことを示す面白い資料である。



### 武市安哉

#### 「衆議院議員辞職の告示書」

武市安哉は、弘化四年長岡郡大埔村（南国市）に生まれた。明治十四年県会議員となり、議長を務めた。翌十五年海南自由党常備委員となつて自由民権運動の先頭に立ち、二十年三大事件建白運動で上京。保安条例違反で投獄された。大赦出獄後、再び県会議員に当選。二十五年の第二回総選挙で衆議院議員に選ばれ、帝国議会で政府の選挙大干渉を弾劾した。敬虔なクリスチャンで、代議士在職中からキリスト教精神に基づく理想郷建設を志した。北海道ウラウスナイ百八十九万坪の払い下げを受けて明治二十六年代議士を辞し、二十六名の青年と入植して聖園農場を開く。この資料は、辞任にあつて第一区（高知市・土佐・長岡郡）の有権者に配布した告示書で、辞職の苦衷を述べ、あえて拓地殖民を決断した心情を綿々と綴る。武市の開拓事業は現在の北海道浦臼町のもとになったが、十七年十二月、第三次入植者募集で帰郷し

帰北途中の青函連絡船の中、脳溢血のため急逝した。



## 民権家入物録



森下高茂は、嶺北地域の自由民権運動指導者で、高知新聞社副社長として明治三十七（一九〇四）年創刊の『高知新聞』を『土陽新聞』を凌駕するまでに育て上げた人物として知られる。

森下は、安政五（一八五八）年十二月五日、長岡郡本山村木能津に生まれた。開校もない県立陶治学舎、さらに大阪府師範学校で学び、明治九（一八七六）年から大阪、東京で小学校教員として勤務。明治十一年帰県して本山、下関小学校で教鞭をとった。自由民権運動への参加時期は不明だが、『旧各社事蹟』によれば嶽洋社に所属していた。

明治十五（一八八二）年八月二十八日の第四回嶺北自由懇親会発起人となったのが民権派新聞に森下の名が登場する最初のものである。同十七年教壇を去った森下は、翌十八年の甲申事変で日清関係が緊張すると義勇兵を組織するため本山練武館に嶺北壯士を集めて訓練を実施、同年八月には夜学婦全館を開館して高知から発陽社員弘瀬重正を招聘、同館を海南親睦会本山組合集会所とした。

明治二十（一八八七）年十一月には下関村外十二ヶ村人民三百九十二人総代として三大事件建白書送達願を高知県庁へ提出。願意貫徹のため上京したが、十二月二十六日、保安条例により帝都を逐われた。二十二年の市制・町村制施行により本山村が生まれると、選ばれて村会議員、次いで助役となり、二十六年から二十九年まで村長をつとめた。また、二十三年四月から四十年まで（二期欠）県会議員に選ばれ、村政、県政に重きをなした。

明治二十六（一八九三）年一月十五日、片岡健吉立ち会いのもと宣教師ナツクスから受洗。同年、伝道中の小倉牧師共々、川遊びをしていた娘寿子が吉野川に流されて溺死する事件が起こった。以後、数年間、妻の前では一言も娘の名を口にすることなく、事件は森下の信仰をいっそう深めることになったという。

明治三十五（一九〇二）年、立憲政友会高知支部内の郡部派、中央派の抗争が激化し、高知県政は混乱状態に陥る。中央派の重鎮として活動した森下は、やがて政友会を脱党して海南倶楽部、国民党、同志会、憲政会、民政党に所属し、推されて県支部長の任にあつた。

昭和二（一九二七）年四月十三日、本山上街公園に「森下高茂翁頌徳碑」が除幕。同四年、宿願の浜口雄幸内閣が誕生するとその祝賀会の席で倒れ、以後、高知市本町の高知新聞社前の自宅で養生したが、昭和十（一九三五）年一月二十六日、六十七歳で死去した。枕元には通読九回目という大型の聖書があつた。葬儀は町葬で行われた。

